

## 令和5年度 学校関係者評価委員会の報告を受けて 次年度（令和6年度）に向けた改善方策

### 1 学習指導について

- (1) 学びにおけるICTの効果的な活用を校内のICT教育推進委員会と研究推進委員会が協働して研究し、生徒がICTを活用し主体的に学ぶ学習への転換を行う。
- (2) 「教育DX」の推進に向けて、一人一台の学習用タブレット端末を「文房具」のように活用することで、デジタルのスキルを向上させ、デジタル社会へ関与していく能力を高めるデジタルシティズンシップ教育を推進する。
- (3) 学習用タブレット端末を活用し、生徒一人一人の能力・適正等に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- (4) 各教科で繰り返しの学習や補充学習、教え合い学習を充実させ、実生活に活用できる知識及び技能の確実な習得を図る。また、指導方法や学習形態の工夫や改善により、発展的な課題に対しても、他者と考えを共有することで思考を深め、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を育成する。
- (5) 生徒一人一人の興味・関心や問い、疑問に歩み寄った指導内容や指導方法の工夫改善を積極的に進め、「何が身に付いたか」の視点での評価を繰り返すことで、生徒の学びに対する自己肯定感を高め、学びの継続志向を育成する。また、評価方法に関しては年度当初だけではなく、随時、生徒に解説し、生徒の学習意欲を高めていく。

### 2 進路指導（キャリア教育）について

- (1) 「キャリア・パスポート」の活用を推進し、三者面談や二者面談での生徒との対話的な関わりを図る資料としてキャリアカウンセリングを1年次から行い、自分自身の変化や成長を実感させる。また、そのキャリアカウンセリングにおいて「アウトプット（何をどれほどやったか）」と「アウトカム（どのような成果を挙げたか）」を明確にし、自己の生き方を考え、自己実現していくための資質・能力を育成する。
- (2) キャリア教育年間指導計画を見直し、現在とこれからの社会との関わりを学びながら、将来の社会的・職業的自立に向けて主体的に考えるキャリアプランニング能力と、自分ができること、意義を感じることを、したいことについて、自分の思考や感情を捉え、律し、自らを研鑽していく自己管理能力を3年間かけて育成する。

### 3 独自項目について

- (1) みしまの森学舎の幼稚園や保育所、こども園、小学校と連携し、知的好奇心や体験による気付きを大切にしたい遊びや学びを意図的・計画的に実践することを共通理解することにより、学び舎の児童・生徒が学びに向かう力や姿勢を育成する。また、学び舎経営企画会議において、学び舎の連携の在り方に見直し、活動の見える化を前提とした学び舎の連携を図る。
- (2) 東深沢・等々力コミュニティや東深沢スポーツ・文化クラブ、青少年深沢地区委員会、町会等との連携を大切に、生徒が地域の特色ある取組・行事や地域ボランティアに積極的にかかわることで、地域に貢献し、地域を大切に、地域を持続・発展させる意欲と態度を育成する。